

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	日本理工情報専門学校
設置者名	学校法人瓶井学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	自動車整備科 (2年制)	夜・通信	2380時間	80×2 =160時間	
	電気デジタル情報科 Aコース (2年制)	夜・通信	1248時間	80×2 =160時間	
	電気デジタル情報科 Bコース (2年制)	夜・通信	429時間	80×2 =160時間	
	電子・情報工学科 Aコース (2年制)	夜・通信	897時間	80×2 =160時間	
	電子・情報工学科 Bコース (2年制)	夜・通信	1092時間	80×2 =160時間	
	建築デザイン科 (2年制)	夜・通信	2100時間	80×2 =160時間	
	ロボットシステム科 (4年制)	夜・通信	1004時間	80×4 =320時間	
	電気工事士科 (1年制)	⑫ ・通信	975時間	80×1 =80時間	
	電気工学科 (2年制)	⑫ ・通信	540時間	45×2 =90時間	
	建築デザイン科 (2年制)	⑫ ・通信	1680時間	45×2 =90時間	

	情報工学科 (1年制)	⑨ ・通信	280時間	80×1 =80時間	
	ロボティクス科 (1年制)	⑨ ・通信	320時間	80×1 =80時間	
文化・教養課程	日本語学科 (1年制)	夜・通信		80×1 =80時間	※
	日本語学科 (1.5年制)	夜・通信		80×1.5 =120時間	※
	日本語学科 (2年制)	夜・通信		80×2 =160時間	※
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 日本語学科
(困難である理由) 語学を教育する学科であるので、実務経験を有する教員が在籍していない

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本理工情報専門学校
設置者名	学校法人瓶井学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

日本理工情報専門学校のホームページにて公表
URL: <https://www.nrj.ac.jp/#modalDM>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(前職) 名商物産株式会社 (昭和42年4月1日～ 昭和58年7月31日) 「昭和58年9月26日 時点では無職」	昭和58年 9月26日 ～令和5年 9月25日	渉外・調整
非常勤	(現職) トナミ電工株式会社 取締役会長 (平成20年5月1日～)	平成30年 12月23日 ～令和5年 9月25日	経営(産業界の動向 把握)・研修
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本理工情報専門学校
設置者名	学校法人 瓶井学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) シラバスにより、各試験、レポート、平常点(学習の意欲)の割合などを記載し、それにのっとり、各教員より成績評価をする。 また複数の教員が授業を行う場合は、全ての成績を合算し、平均をとって最終的な成績評価としている。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。

- ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。
- ② 評価は、秀 (100点～90点) 優 (89点～80点)・良 (79～70点)・可 (69～60点)・不可 (59点以下) で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。
- ③ 客観的評価 GPA 制度について

GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。

成績評価基準と GP

成績評価	GP	備考
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。
優	3	到達目標を十分に達成している。
良	2	到達目標を達成している。
可	1	到達目標を最低限達成している。
不可	0	到達目標を達成していない。

GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$

*小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む

客観的な指標の
算出方法の公表方法

日本理工情報専門学校のホームページにて公表
URL: <https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

日本理工情報専門学校の教育目標

実践的専門技術教育とともに、人間形成の一部を担いアイデンティティの確立に寄与するという理念のもと、実践力に富み、広い視野を持った、真に良識ある技術者を育成する。

学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。

1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。
2. 専門的な知識を修得している。(工業専門課程)
3. 専門的な技能を修得している。(工業専門課程)
4. 日本での高等教育進学および社会生活に支障のない必要十分な日本語の語学知識と運用能力を修得している。(文化・教養課程)
5. 豊かな教養と広い見識を修得している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

日本理工情報専門学校のホームページにて公表
URL: <https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien>

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>自動車整備科 (昼間 2 年)</p> <p>自動車整備科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と自動車整備の専門知識・技術を修得するとともに、二級自動車整備士の取得が目標であり、その資格・技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定し、専門士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。 2. 自動車整備士の専門的な知識を修得している。 3. 自動車整備士の専門的な技能を修得している。 4. 豊かな教養と広い見識を修得している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校ホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>電気デジタル情報科 A コース (昼間 2 年)</p> <p>電気デジタル情報科 A コースでは、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電気の専門知識・技術を修得するとともに、第二種電気工事士を卒業と同時に取得でき、その資格を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定し、専門士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。 2. 電気工事士の専門的な知識を修得している。 3. 電気工事士の専門的な技能を修得している。 4. 豊かな教養と広い見識を修得している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校ホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>電気デジタル情報科 Bコース (昼間2年)</p> <p>電気デジタル情報科 Bコースでは、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電気の専門知識・技術を修得するとともに、第二種電気工事士、第三種電気主任技術者の取得を目指し、その資格を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定し、専門士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。 2. 電気主任技術者の専門的な知識を修得している。 3. 電気主任技術者の専門的な技能を修得している。 4. 豊かな教養と広い見識を修得している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>電子・情報工学科 Aコース (昼間2年)</p> <p>電子・情報工学科 Aコースでは、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電子・電気・情報の専門知識・技術を修得するとともに、陸上無線技術士資格の取得を目指す、また、工事担任者 第一級デジタル通信が取得でき電子回路技術を習得して、その資格・技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定し、専門士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。 2. 電子・電気・情報の専門的な知識を修得している。 3. 電子・電気・情報の専門的な技能を修得している。 4. 豊かな教養と広い見識を修得している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>電子・情報工学科 Bコース (昼間2年)</p> <p>電子・情報工学科 Bコースでは、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電子・電気・情報の専門知識・技術を修得するとともに、工事担任者 第一級デジタル通信が取得でき電子回路技術を習得して、その資格・技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定し、専門士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。 2. 電子・電気・情報の専門的な知識を修得している。 3. 電子・電気・情報の専門的な技能を修得している。 4. 豊かな教養と広い見識を修得している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>建築デザイン科 (昼間2年)</p> <p>建築デザイン科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と建築の専門知識・技術を修得するとともに、一級・二級建築士・二級建築施工管理技士を目指し、その資格・技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、いかに定める要件を満たしたものに対して卒業を認定し、専門士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。 2. 建築士の専門的な知識を修得している。 3. 建築士の専門的な技能を修得している。 4. 豊かな教養と広い見識を修得している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>ロボットシステム科 (昼間4年)</p> <p>ロボットシステム科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電子・電気・情報の高度な専門知識・技術を修得するとともに、ロボットの設計・制御技術を習得して、その技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定し、高度専門士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。 2. 電子・電気・情報の高度な専門的な知識を修得している。 3. 電子・電気・情報の高度な専門的な技能を修得している。 4. 豊かな教養と広い見識を修得している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>電気工事士科 (夜間1年)</p> <p>電気工事士科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電気の専門知識・技術を修得するとともに、第二種電気工事士を卒業と同時に取得でき、その資格を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。 2. 電気工事士の専門的な知識を修得している。 3. 電気工事士の専門的な技能を修得している。 4. 豊かな教養と広い見識を修得している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>電気工学科 (夜間2年)</p> <p>電気工学科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電気の専門知識・技術を修得するとともに、第二種電気工事士、第三種電気主任技術者の取得を目指し、その資格を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定し、専門士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。 2. 電気主任技術者の専門的な知識を修得している。 3. 電気主任技術者の専門的な技能を修得している。 4. 豊かな教養と広い見識を修得している。 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien</p>

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>建築デザイン科 (夜間2年)</p> <p>建築デザイン科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と建築の専門知識・技術を修得するとともに、一級・二級建築士・二級建築施工管理技士を目指し、その資格・技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。 2. 建築士の専門的な知識を修得している。 3. 建築士の専門的な技能を修得している。 4. 豊かな教養と広い見識を修得している。 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien</p>

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>情報工学科 (夜間1年)</p> <p>情報工学科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電子・情報・通信の専門知識・技術を修得するとともに、情報処理技術者試験の取得が目標であり、その資格・技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。 2. 電子・情報・通信の専門的な知識を修得している。 3. 電子・情報・通信の専門的な技能を修得している。 4. 豊かな教養と広い見識を修得している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>ロボティクス科 (夜間1年)</p> <p>ロボティクス科では、社会生活に役立つ実学を柱とし、人間性豊かな技術者の育成を行う。幅広い教養と電子・電気・情報の専門知識・技術を修得するとともに、ロボットの設計・制御技術を習得して、その技術を活かせる職業に就くことが出来る技術者の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、いかに定める要件を満たしたものに対して卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。 2. 電子・電気・情報の専門的な知識を修得している。 3. 電子・電気・情報の専門的な技能を修得している。 4. 豊かな教養と広い見識を修得している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>日本語学科 (昼間 1 年)</p> <p>当学科では、大学等の高等教育進学に対応でき、日本での社会生活に支障のない総合的な日本語能力の習得を目標とし、日本語能力試験 (JLPT) N1、N2、N3 合格と日本留学試験 (EJU) の高得点 (250 点以上) 取得を目指してそれに必要な科目を中心に学ぶとともに、日本の生活様式や慣習等の文化に対する知識も深めながら、語学能力と異文化理解の両面において優れた人材の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たした者に対して卒業を認定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。 2、日本での高等教育進学および社会生活に支障のない必要十分な日本語の語学知識と運用能力を修得している。 3、豊かな教養と広い見識を修得している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>日本語学科 (昼間 1.5 年)</p> <p>当学科では、大学等の高等教育進学に対応でき、日本での社会生活に支障のない総合的な日本語能力の習得を目標とし、日本語能力試験 (JLPT) N1、N2、N3 合格と日本留学試験 (EJU) の高得点 (250 点以上) 取得を目指してそれに必要な科目を中心に学ぶとともに、日本の生活様式や慣習等の文化に対する知識も深めながら、語学能力と異文化理解の両面において優れた人材の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たした者に対して卒業を認定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。 2、日本での高等教育進学および社会生活に支障のない必要十分な日本語の語学知識と運用能力を修得している。 3、豊かな教養と広い見識を修得している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>日本語学科 (昼間 2 年)</p> <p>当学科では、大学等の高等教育進学に対応でき、日本での社会生活に支障のない総合的な日本語能力の習得を目標とし、日本語能力試験 (JLPT) N1、N2、N3 合格と日本留学試験 (EJU) の高得点 (250 点以上) 取得を目指してそれに必要な科目を中心に学ぶとともに、日本の生活様式や慣習等の文化に対する知識も深めながら、語学能力と異文化理解の両面において優れた人材の育成を目的としている。</p> <p>学則に定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下に定める要件を満たした者に対して卒業を認定し、文化教養専門士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、学則に定められた授業科目及び単位数を取得している。 2、日本での高等教育進学および社会生活に支障のない必要十分な日本語の語学知識と運用能力を修得している。 3、豊かな教養と広い見識を修得している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalsyugakusien

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	日本理工情報専門学校
設置者名	学校法人瓶井学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalDM
収支計算書又は損益計算書	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalDM
財産目録	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalDM
事業報告書	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalDM
監事による監査報告（書）	日本理工情報専門学校のホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalDM

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	自動車整備科	平成19年文 部科学大臣 告示20号			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2380 単位時間	704単 位時間	44単位 時間	1632 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		63人	40人	4人	7人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																		
（概要）教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。																		
成績評価の基準・方法																		
（概要） 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。 ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。 ② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点） ・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。 ③ 客観的評価GPA制度について GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準とGP																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table>	成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																
優	3	到達目標を十分に達成している。																
良	2	到達目標を達成している。																
可	1	到達目標を最低限達成している。																
不可	0	到達目標を達成していない。																
GPAの計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む																		
卒業・進級の認定基準																		
（概要） 設定科目の成績評価が60点以上であり、養成施設の指定学科修了には、出席率100%が必要で、進級または、卒業することができる。																		
学修支援等																		

(概要)
 クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
37人 (100%)	0人 (0%)	36人 (97.3%)	1人 (2.7%)
(主な就職、業界等) 自動車小売業			
(就職指導内容) 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2級自動車整備士、危険物乙種四類、小型中古査定士、低圧電気取扱特別講習、各種溶接			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
72人	4人	4.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 1時間目に欠席学生の自宅に電話し登校を促す。成績不振の学生への補習授業の実施 退学希望の学生に対し担任・責任者等3名以上が順に面談し翻意を促す		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電気デジタル 情報科Aコース	平成13年文 部科学大臣 告示25号			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2652単位時間	1248 単位時間	273単 位時間	741単 位時間	390単 位時間	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		9人	8人	3人	11人	14人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																				
<p>（概要） 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。</p>																				
成績評価の基準・方法																				
<p>（概要） 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。</p> <p>① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。</p> <p>② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点）・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。</p> <p>③ 客観的評価GPA制度について GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。</p> <p>成績評価基準とGP</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPAの計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む</p>			成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																		
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																		
優	3	到達目標を十分に達成している。																		
良	2	到達目標を達成している。																		
可	1	到達目標を最低限達成している。																		
不可	0	到達目標を達成していない。																		
卒業・進級の認定基準																				
<p>（概要） 設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上（養成施設の指定学科修了には、出席率100%が必要）で進級または、卒業することができる。</p>																				
学修支援等																				
<p>（概要） クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施</p>																				

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15人 (100%)	0人 (0%)	13人 (86.7%)	2人 (13.3%)
（主な就職、業界等） 電気工事業・家庭電器修理業			
（就職指導内容） 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 低圧電気特別教育・第二種電気工事士・第一種電気工事士 ・工事担任者 第一級デジタル通信・消防設備士甲種第4類			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26人	4人	15.4%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 1時間目に欠席学生の自宅に電話し登校を促す。成績不振の学生への補習授業の実施 退学希望の学生に対し担任・責任者等3名以上が順に面談し翻意を促す		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電気デジタル 情報科 B コース	平成 13 年文 部科学大臣 告示 25 号			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2 6 5 2 単位時間	1 2 8 7 単位時間	2 7 3 単 位時間	7 0 2 単 位時間	3 9 0 単 位時間	単位時間 / 単位
			単位時間 / 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
6 0 人		1 0 人	1 人	3 人	1 1 人	1 4 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)		
(概要) 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。		
成績評価の基準・方法		
(概要) 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。 ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。 ② 評価は、秀 (100 点～90 点) 優 (89 点～80 点) ・良 (79～70 点) ・可 (69～60 点) ・不可 (59 点以下) で 60 点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。 ③ 客観的評価 GPA 制度について GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準と GP		
成績評価	GP	備考
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。
優	3	到達目標を十分に達成している。
良	2	到達目標を達成している。
可	1	到達目標を最低限達成している。
不可	0	到達目標を達成していない。
GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ * 小数点第 2 位下四捨五入、* 分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む		
卒業・進級の認定基準		
(概要) 設定科目の成績評価が 6 0 点以上であり、出席時数が総授業時数の 3 / 4 以上、各科目の出席時数が総授業時数の 2 / 3 以上で進級または、卒業することができる。		
学修支援等		
(概要) クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施		

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	5人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 電気設備管理・電気工事業			
（就職指導内容） 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 低圧電気特別教育・第二種電気工事士・第一種電気工事士 ・工事担任者 第一級デジタル通信・第三種電気主任技術者			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 1時間目に欠席学生の自宅に電話し登校を促す。成績不振の学生への補習授業の実施 退学希望の学生に対し担任・責任者等3名以上が順に面談し翻意を促す		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	電子・情報工学科 Aコース	平成19年文 部科学大臣 告示21号				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2808 単位時間/単位	1794 単位時間	195単 位時間	585単 位時間	390単 位時間	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	0人	0人	2人	9人	11人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																		
(概要) 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。																		
成績評価の基準・方法																		
(概要) 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。 ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。 ② 評価は、秀 (100点～90点) 優 (89点～80点) ・良 (79～70点) ・可 (69～60点) ・不可 (59点以下) で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。 ③ 客観的評価 GPA 制度について GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準と GP																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table>	成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																
優	3	到達目標を十分に達成している。																
良	2	到達目標を達成している。																
可	1	到達目標を最低限達成している。																
不可	0	到達目標を達成していない。																
GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む																		
卒業・進級の認定基準																		
(概要) 設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。																		
学修支援等																		
(概要) クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施																		

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 通信建設業			
（就職指導内容） 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 第2級陸上無線技術士・第1級陸上特殊無線技士・第3級海上特殊無線技士・低圧電気特別教育・第二種電気工事士・工事担任者 第一級デジタル通信 ・電子機器組み立て技能士3級			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	1人	100%
（中途退学の主な理由） 家庭の事情（経済的理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 1時間目に欠席学生の自宅に電話し登校を促す。成績不振の学生への補習授業の実施 退学希望の学生に対し担任・責任者等3名以上が順に面談し翻意を促す		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	電子・情報工学科 Bコース	平成19年文 部科学大臣 告示21号				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2808 単位時間	1209 単位時間	195単 位時間	1170 単位時間	234単 位時間	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	17人	11人	2人	9人	11人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																		
(概要) 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。																		
成績評価の基準・方法																		
(概要) 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。 ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。 ② 評価は、秀 (100点～90点) 優 (89点～80点) ・良 (79～70点) ・可 (69～60点) ・不可 (59点以下) で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。 ③ 客観的評価 GPA 制度について GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準と GP																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table>	成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																
優	3	到達目標を十分に達成している。																
良	2	到達目標を達成している。																
可	1	到達目標を最低限達成している。																
不可	0	到達目標を達成していない。																
GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む																		
卒業・進級の認定基準																		
(概要) 設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。																		
学修支援等																		
(概要) クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施																		

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8人 (100%)	2人 (25%)	6人 (75%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 電子・電気・機械系企業 IT・マイコン系企業 家電系企業			
（就職指導内容） 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 低圧電気特別教育・第二種電気工事士・工事担任者 第一級デジタル通信 ・電子機器組み立て技能士3級・CAD利用技術者試験・基本情報処理試験			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	1人	5.6%
（中途退学の主な理由） 体調不良		
（中退防止・中退者支援のための取組） 1時間目に欠席学生の自宅に電話し登校を促す。成績不振の学生への補習授業の実施 退学希望の学生に対し担任・責任者等3名以上が順に面談し翻意を促す		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築デザイン科	平成13年文 部科学大臣 告示25号			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2130 単位時間	1320 単位時間	240単 位時間	570単 位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		6人	4人	2人	9人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）		
（概要） 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。		
成績評価の基準・方法		
（概要） 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。 ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。 ② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点） ・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。 ③ 客観的評価GPA制度について GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準とGP		
成績評価	GP	備考
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。
優	3	到達目標を十分に達成している。
良	2	到達目標を達成している。
可	1	到達目標を最低限達成している。
不可	0	到達目標を達成していない。
GPAの計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む		
卒業・進級の認定基準		
（概要） 設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。		
学修支援等		
（概要） クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施		

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8人 (100%)	1人 (12.5%)	6人 (75%)	1人 (12.5%)
（主な就職、業界等） 建設業			
（就職指導内容） 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 2級建築士・2級建築施工管理技士・CAD利用技術者・商業施設士補			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	2人	18.2%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 1時間目に欠席学生の自宅に電話し登校を促す。成績不振の学生への補習授業の実施 退学希望の学生に対し担任・責任者等3名以上が順に面談し翻意を促す		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ロボットシステム科		平成 22 年文 部科学省 告示 34 号		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	4 9 9 2 単位時間	1 8 3 3 単位時間	3 5 1 単 位時間	1 5 6 0 単位時間	3 1 2 単 位時間	9 3 6 単 位時間
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
1 2 0 人		4 人	1 人	2 人	6 人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																				
<p>（概要） 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。</p>																				
成績評価の基準・方法																				
<p>（概要） 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。</p> <p>① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。</p> <p>② 評価は、秀（100点～90点）優（89点～80点）・良（79～70点）・可（69～60点）・不可（59点以下）で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。</p> <p>③ 客観的評価 GPA 制度について GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP（Grade Point）を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。</p> <p>成績評価基準と GP</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む</p>			成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																		
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																		
優	3	到達目標を十分に達成している。																		
良	2	到達目標を達成している。																		
可	1	到達目標を最低限達成している。																		
不可	0	到達目標を達成していない。																		
卒業・進級の認定基準																				
<p>（概要） 設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。</p>																				
学修支援等																				
<p>（概要） クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施</p>																				

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
4人 (100%)	0人 (0%)	3人 (75%)	1人 (25%)
（主な就職、業界等） 電子・電気・機械・通信・家電系企業、国家公務員			
（就職指導内容） 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報処理試験・CAD利用技術者試験・低圧電気特別教育・電気工事士 ・工事担任者（総合通信）・特殊無線技士・第3種電気主任技術者			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 1時間目に欠席学生の自宅に電話し登校を促す。成績不振の学生への補習授業の実施 退学希望の学生に対し担任・責任者等3名以上が順に面談し翻意を促す		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電気工事士科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	夜間	975 単位時間/単位	405単 位時間	単位時間 /単位	570単 位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		6人	0人	3人	11人	14人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																				
(概要) 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。																				
成績評価の基準・方法																				
(概要) 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。																				
<p>① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。</p> <p>② 評価は、秀 (100点~90点) 優 (89点~80点) ・良 (79~70点) ・可 (69~60点) ・不可 (59点以下) で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。</p> <p>③ 客観的評価 GPA 制度について GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準と GP</p>																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table>			成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																		
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																		
優	3	到達目標を十分に達成している。																		
良	2	到達目標を達成している。																		
可	1	到達目標を最低限達成している。																		
不可	0	到達目標を達成していない。																		
GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む																				
卒業・進級の認定基準																				
(概要) 設定科目の成績評価が60点以上であり、養成施設の指定学科修了には、出席率100%が必要で、卒業することができる。																				
学修支援等																				
(概要) クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施																				

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	3人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 電気工事業			
（就職指導内容） 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 低圧電気特別教育・第二種電気工事士・第一種電気工事士・消防設備士甲種第4類			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 土曜日、日曜日における補習授業の実施		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	電気工学科	平成14年文部科学省告示19号				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	夜間	1800 単位時間	900単位時間	単位時間/単位	500単位時間	400単位時間	単位時間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	63人	0人	4人	5人	9人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																		
(概要) 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。																		
成績評価の基準・方法																		
(概要) 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。 ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。 ② 評価は、秀 (100点～90点) 優 (89点～80点) ・良 (79～70点) ・可 (69～60点) ・不可 (59点以下) で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。 ③ 客観的評価 GPA 制度について GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準と GP																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table>	成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																
優	3	到達目標を十分に達成している。																
良	2	到達目標を達成している。																
可	1	到達目標を最低限達成している。																
不可	0	到達目標を達成していない。																
GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む																		
卒業・進級の認定基準																		
(概要) 設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。																		
学修支援等																		
(概要) クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施																		

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
34人 (100%)	0人 (0%)	34人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 電気設備管理・電気工事業			
（就職指導内容） 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 低圧電気特別教育・第二種電気工事士・第一種電気工事士・第三種電気主任技術者 消防設備士 甲種第4類			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
73人	3人	4.1%
（中途退学の主な理由） 転勤のため通学が、出来なくなり退学		
（中退防止・中退者支援のための取組） 土曜日、日曜日における補習授業の実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築デザイン科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	夜間		講義	演習	実習	実験	実技
2年	夜間	1800 単位時間	660単 位時間	60単位 時間	1080 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		0人	0人	2人	6人	8人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																		
(概要) 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。																		
成績評価の基準・方法																		
(概要) 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。 ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。 ② 評価は、秀 (100点~90点) 優 (89点~80点) ・良 (79~70点) ・可 (69~60点) ・不可 (59点以下) で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。 ③ 客観的評価 GPA 制度について GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準と GP																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table>	成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																
優	3	到達目標を十分に達成している。																
良	2	到達目標を達成している。																
可	1	到達目標を最低限達成している。																
不可	0	到達目標を達成していない。																
GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む																		
卒業・進級の認定基準																		
(概要) 設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。																		
学修支援等																		
(概要) クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施																		

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 建築業			
（就職指導内容） 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） 2級建築士・2級建築施工管理技士・CAD利用技術者・商業施設士補			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 土曜日、日曜日における補習授業の実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報工学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	夜間		講義	演習	実習	実験	実技
1年	夜間	800 単位時間	560単 位時間	単位時間 /単位	80単位 時間	160単 位時間	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		0人	0人	2人	6人	8人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																			
(概要) 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。																			
成績評価の基準・方法																			
(概要) 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。 ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。 ② 評価は、秀 (100点~90点) 優 (89点~80点) ・良 (79~70点) ・可 (69~60点) ・不可 (59点以下) で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。 ③ 客観的評価 GPA 制度について GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準と GP																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table>		成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																	
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																	
優	3	到達目標を十分に達成している。																	
良	2	到達目標を達成している。																	
可	1	到達目標を最低限達成している。																	
不可	0	到達目標を達成していない。																	
GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ * 小数点第2位下四捨五入、* 分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む																			
卒業・進級の認定基準																			
(概要) 設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。																			
学修支援等																			
(概要) クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施																			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） IT・マイコン系企業			
（就職指導内容） 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） 低圧電気特別教育・工事担任者・CAD利用技術者試験・基本情報処理試験			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 土曜日、日曜日における補習授業の実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ロボティクス科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	夜間	800 単位時間	320単 位時間	160単 位時間	160単 位時間	160単 位時間	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		0人	0人	2人	6人	8人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																		
(概要) 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。																		
成績評価の基準・方法																		
(概要) 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。 ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。 ② 評価は、秀 (100点~90点) 優 (89点~80点) ・良 (79~70点) ・可 (69~60点) ・不可 (59点以下) で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。 ③ 客観的評価 GPA 制度について GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準と GP																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table>	成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																
優	3	到達目標を十分に達成している。																
良	2	到達目標を達成している。																
可	1	到達目標を最低限達成している。																
不可	0	到達目標を達成していない。																
GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む																		
卒業・進級の認定基準																		
(概要) 設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。																		
学修支援等																		
(概要) クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、保護者懇談などを実施																		

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 電子・機械・通信系企業 IT系企業			
（就職指導内容） 就職ガイダンスへの参加促進、求人情報の提供、斡旋を行うとともに、必要に応じ個別相談・指導等を実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） 低圧電気特別教育・電気工事士・工事担任者・CAD利用技術者試験			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 土曜日、日曜日における補習授業の実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
日本語		文化教養課程	日本語学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	900 単位時間	900単 位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		0人	0人	4人	15人	19人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																		
(概要) 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。																		
成績評価の基準・方法																		
(概要) 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。 ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。 ② 評価は、秀 (100点~90点) 優 (89点~80点) ・良 (79~70点) ・可 (69~60点) ・不可 (59点以下) で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。 ③ 客観的評価 GPA 制度について GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準と GP																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table>	成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																
優	3	到達目標を十分に達成している。																
良	2	到達目標を達成している。																
可	1	到達目標を最低限達成している。																
不可	0	到達目標を達成していない。																
GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む																		
卒業・進級の認定基準																		
(概要) 設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。																		
学修支援等																		
(概要) クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、(在母国の) 保護者懇談などを実施																		

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
4人 (100%)	0人 (0%)	3人 (75%)	1人 (25%)
（主な就職、業界等） 当学科は、大学等の高等教育進学が本来であるものの、「技術・人文知識・国際業務」の在留資格をもって、製造業、サービス業に就く者もいる。			
（就職指導内容） 希望者には個人面談を行い、履歴書の書き方指導、面接指導等のアドバイスを行う。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験（JLPT）N1/N2/N3 日本留学試験			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） クラス担任制による個別面談等を随時行い、学生の現状把握及び支援・指導を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
日本語		文化教養課程	日本語学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1.5 年	昼間	1350 単位時間	1350 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		37人	35人	4人	15人	19人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																			
(概要) 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。																			
成績評価の基準・方法																			
(概要) 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。 ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。 ② 評価は、秀 (100点~90点) 優 (89点~80点) ・良 (79~70点) ・可 (69~60点) ・不可 (59点以下) で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。 ③ 客観的評価 GPA 制度について GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準と GP																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table>		成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																	
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																	
優	3	到達目標を十分に達成している。																	
良	2	到達目標を達成している。																	
可	1	到達目標を最低限達成している。																	
不可	0	到達目標を達成していない。																	
GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む																			
卒業・進級の認定基準																			
(概要) 設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。																			
学修支援等																			
(概要) クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、(在母国の) 保護者懇談などを実施																			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3人 (100%)	2人 (66.7%)	0人 (0%)	1人 (33.3%)
（主な就職、業界等） 当学科は、大学等の高等教育進学が本来であるものの、「技術・人文知識・国際業務」の在留資格をもって、製造業、サービス業に就く者もいる。			
（就職指導内容） 希望者には個人面談を行い、履歴書の書き方指導、面接指導等のアドバイスを行う			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験（JLPT）N1/N2/N3 日本留学試験			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） クラス担任制による個別面談等を随時行い、学生の現状把握及び支援・指導を行っている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
日本語	文化教養課程	日本語学科	文部科学省 告示 平成17年第 30号				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1800 単位時間	1800 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	111人	111人	4人	5人	19人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																		
(概要) 教務会議で授業の方法及び内容、到達目標、科目間のバランス、授業レベル、成績評価方法と基準を決定し、実務経験の有無等を記載したシラバスを作成し、公表している。																		
成績評価の基準・方法																		
(概要) 公表しているシラバスの内容に基づき、以下の方法にて成績評価を行っている。 ① 学業成績は、授業概要に記載のある各科目の「単位認定の方法及び評価の基準」に基づく客観的基準により決定される。 ② 評価は、秀 (100点~90点) 優 (89点~80点) ・良 (79~70点) ・可 (69~60点) ・不可 (59点以下) で60点以上を合格とし、それに満たないものは不合格とする。 ③ 客観的評価 GPA 制度について GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 GP (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、各学年の科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいう。 成績評価基準と GP																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>GP</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>4</td> <td>到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>3</td> <td>到達目標を十分に達成している。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>2</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>1</td> <td>到達目標を最低限達成している。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </tbody> </table>	成績評価	GP	備考	秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。	優	3	到達目標を十分に達成している。	良	2	到達目標を達成している。	可	1	到達目標を最低限達成している。	不可	0	到達目標を達成していない。
成績評価	GP	備考																
秀	4	到達目標を十分に達成しており、優れた成果をおさめている。																
優	3	到達目標を十分に達成している。																
良	2	到達目標を達成している。																
可	1	到達目標を最低限達成している。																
不可	0	到達目標を達成していない。																
GPA の計算例 $GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{全科目の単位数の合計}$ *小数点第2位下四捨五入、*分母の総単位数には、不合格科目の単位数を含む																		
卒業・進級の認定基準																		
(概要) 設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。																		

学修支援等 (概要) クラス担任制を取っており、学生全員に個別相談を実施している。 その他必要に応じ、個別面談、学習支援、電話連絡、文書送付、(在母国の)保護者懇談などを実施

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (100%)	17人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 当学科は、大学等の高等教育進学が本来であるものの、「技術・人文知識・国際業務」の在留資格をもって、製造業、サービス業に就く者もいる。			
(就職指導内容) 希望者には個人面談を行い、履歴書の書き方指導、面接指導等のアドバイスを行う。			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 日本語能力試験 (JLPT) N1/N2/N3 日本留学試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
65人	2人	3.1%
(中途退学の主な理由) 就職 (1人) 問題行動による懲戒 (1人)		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制による個別面談等を随時行い、学生の現状把握及び支援・指導を行っている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
自動車整備科	170,000円	1,000,000円	82,400円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
電気デジタル情報科 Aコース	270,000円	1,140,000円	103,400円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
電気デジタル情報科 Bコース	270,000円	1,140,000円	103,400円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
電子・情報工学科 Aコース	270,000円	1,000,000円	82,400円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
電子・情報工学科 Bコース	270,000円	1,000,000円	82,400円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
建築デザイン科	270,000円	1,000,000円	82,400円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
ロボットシステム科	270,000円	1,000,000円	82,400円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
(夜間部)電気工事士科	30,000円	370,000円	103,400円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
(夜間部)電気工学科	30,000円	370,000円	103,400円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
(夜間部)建築デザイン科	30,000円	370,000円	82,400円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
(夜間部)情報工学科	30,000円	370,000円	82,400円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
(夜間部)ロボティクス科	30,000円	370,000円	82,400円	その他の内訳 (実習材料費・学生厚生費)
日本語学科	60,000円	660,000円	56,000円	その他の内訳 (教材費・課外活動費・学生厚生費)
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 日本理工情報専門学校ホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalDM		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 教育活動の成果を検証し、それを公表することにより、学生がより良い学校生活を送り満足な学修ができるような学校運営の改善を目指し、教育水準の向上を図ることが重要である		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
トナミ電工 株式会社	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日 (任期更新)	PTA 企業等委員
有限会社 スタジオ・マックス	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日 (任期更新)	卒業生 企業等委員
イシウエヨシヒロ建築設計事務所	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日 (任期更新)	企業等委員
なし	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日 (任期更新)	元高等学校校長
有限会社 車楽工房	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日 (任期更新)	企業等委員
東洋ビルメンテナンス 株式会社	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日 (任期更新)	卒業生 企業等委員
株式会社 ジェイファスト	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日 (任期更新)	企業等委員
大阪府電気工事工業組合	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日 (任期更新)	業界団体
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 日本理工情報専門学校ホームページにて公表 URL: https://www.nrj.ac.jp/#modalDM		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

日本理工情報専門学校ホームページにて公表

URL: <https://www.nrj.ac.jp/>

(別紙)			
※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。			
※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。			
学校コード	H127310000317		
学校名	日本理工情報専門学校		
設置者名	学校法人 瓶井学園		
1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数			
	前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）	—	—	—
内 訳	第Ⅰ区分	—	—
	第Ⅱ区分	—	—
	第Ⅲ区分	—	0人
家計急変による支援対象者（年間）			0人
合計（年間）			—
(備考)			
<p>※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。</p> <p>※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。</p>			
2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数			
(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数			
年間	0人		
(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数			

	右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期		
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	0人	0人	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人		
計	0人	0人	0人		
(備考)					
※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。					
上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数					
右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人
(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数					
退学		—			
3月以上の停学		0人			
年間計		—			
(備考)					
※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。					

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数	
3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	
※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。	

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
G P A 等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	—	0人
計	0人	—	0人
(備考)			
※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。			